２０２６年9月１２日　２学年医学コース　　「医学セミナー」

９月１２日（土曜日)、２年生医学コースでは、県立こども病院名誉院長の須摩崎 亮先生をお迎えし、代表生徒５名が発表を行いました。

生徒たちは、事前に須摩崎先生から提示された論文と課題について、夏季休業中に班ごとに取り組み、その成果を発表しました。今年度の課題は、妊婦の血液中に含まれる胎盤由来の DNA を調べる新型出生前診断（NIPT：Non-Invasive Prenatal Testing）によって見つかる胎児の染色体異常について、その検査方法や課題、さらに高年齢での出産によって生じる可能性のある医学的・社会的課題について考えるというものでした。いずれも医学的な観点から調べていく中で、必ず倫理的な問題に直面する難しいテーマでした。

私たち一人ひとりが持つ DNA は、父親と母親から受け継いだ遺伝情報を併せ持つ、いわば「設計図」のようなものです。DNA を調べることで、将来的に発症する可能性のあるがんや自己免疫疾患などについて知ることができる場合があります。生徒たちは、DNA の抽出方法や増幅方法（PCR 法)、解析方法（次世代シークエンサー）などについて調べ、NIPT を含む DNA 解析技術の可能性に驚きました。

一方で、調べ学習を進めるにつれて、避けては通れない倫理的な問題にも直面しました。班ごとの調査や発表準備は、医療の発展性だけでなく、生命や遺伝情報をどのように捉えるべきかという倫理的な問題についてのディスカッションへと発展しました。その中で、医師だけでなく「遺伝カウンセラー」という職業についても知る機会となり、改めて「チーム医療」の必要性について考えることができました。

各発表に対しては、須摩崎先生から丁寧なフィードバックをいただきました。臨床の現場では、現在、体外受精によって得られた受精卵について、受精後 5〜6 日で胎盤側の細胞を取り出して遺伝子を調べることができることや、小児がんの治療において、将来の妊孕性を温存することが標準的な治療の一つとなっていることなど、最先端の医療についてご教授いただきました。また、日本と欧米諸国における出生前診断に対する意識の違いについてもお話しいただきました。

さらに、生徒たちは、普段ニュースなどで耳にする「高齢出産」という言葉が正式な医学用語ではなく、医学の世界では「高年初産婦」などの用語が用いられることを知り、医学用語の奥深さや正確な言葉を使うことの大切さについても学ぶ機会となりました。

須摩崎先生からは、生徒たちの課題に対する取り組みや、事前に準備した質問の専門性の高さについて、賞賛のお言葉をいただきました。生徒たちは、リハーサルの段階から非常に緊張した面持ちで発表に臨みましたが、高校生の段階で医学専門の論文を読み、最新の医療について自ら調べ、考え、発表するという、非常に実りある機会となりました。

今回の講座を通して、生徒たちは、最新の医学知識を自ら調べることの大切さだけでなく、それを座学で学んだ知識と結び付けて考えることの重要性を実感しました。また、医療技術が発展する一方で、その裏側には倫理的な課題が存在することについても深く考える機会となりました。

医師を志す者にとって、高い探究心を持ち、医学の進歩だけでなく、その背景にある倫理や社会的課題にも目を向ける姿勢は、大切な資質の一つです。今回の学びを今後の探究活動につなげ、医療の問題を多角的に捉え、その背景にある事実にも目を向けられる医師を目指して、2 学年医学コース一丸となって邁進してまいります。